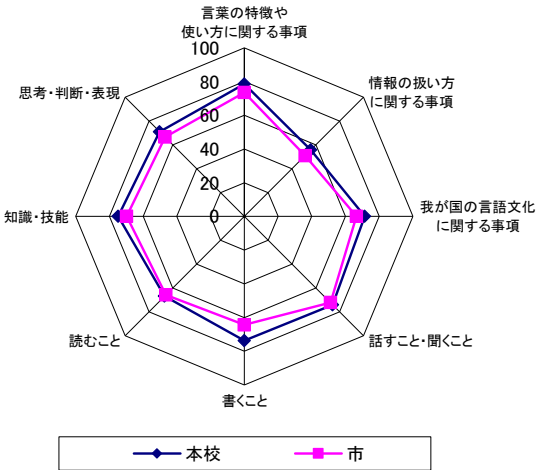


宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.6	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	55.8	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	71.4	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	74.1	72.3	73.7
	書くこと	73.7	64.3	66.6
	読むこと	67.0	65.8	64.9
観点別	知識・技能	74.8	69.8	70.8
	思考・判断・表現	71.1	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

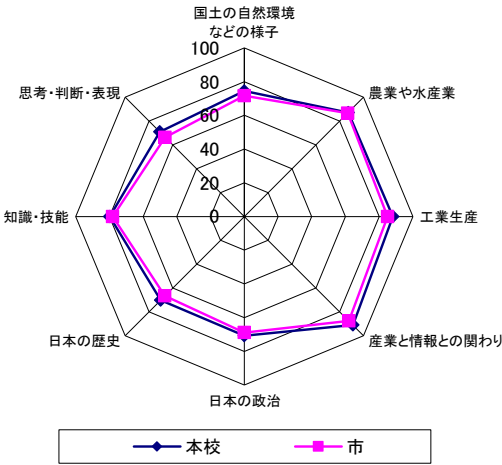
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市平均を上回った。 ○漢字を書く問題は、どの設問でも市の正答率を上回った。 ●漢字を読む問題は、市の正答率をやや下回った。 ●敬語について理解し、正しく使う問題では、市の正答率を上回ったが、正答率が24.1ポイントと低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字に慣れ親しむために、読書や言葉の意味調べに取り組ませる。 ・主語が誰なのかを意識して尊敬語、謙譲語、丁寧語を正しく使い分けることができるようにする。 ・日常の中で敬語を使うよう、意識させる。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市平均を上回った。 ○情報と情報との関係を理解し、文章の情報を整理する問題では、市の正答率を9.1ポイント上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題では、市の正答率をやや上回ったが、正答率は51.8ポイントと低かった。	・国語の授業だけでなく、他教科の調べ学習の際にも、情報を整理して要約させたり、必要な情報を抜き取ったりすることを意識させる。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市平均を上回った。 ○和語・漢語・外来語について理解する問題では、市の正答率を4.9ポイント上回った。	・引き続き、和語や漢語の定義をしっかり理解させ、語句の由来に関心をもたせるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均を上回った。 ○●意図に応じて話の内容を捉える問題では、市の正答率を4.5ポイント上回ったが、正答率は50.9ポイントと低かった。	・インタビューや相手の話を聞く際には、自分が聞こうとする意図を明確にし、相手の話のどこが大切かを意識しながらメモを取るなどの工夫をさせる。
書くこと	平均正答率は、市平均を上回った。 ○段落の役割について理解し、二段落構成で文章を書く問題では、市の正答率を19.8ポイントと大幅に上回った。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、市の正答率を10ポイント上回ったが、正答率は57.1ポイントと低かった。	・意見を述べる際に、自分の意見を述べるだけでなく、予想される反論とそれに対する意見を言うなど、説得力を高める工夫ができるよう、話し合いや意見文を書く機会を増やしていく。
読むこと	平均正答率は、市平均を上回った。 ○物語の内容を読み取る問題は、市平均をすべて上回った。 ●説明文の内容を読み取る問題では、正答率が低かった。	・引き続き、説明文における文章の内容を捉えることができるよう、序論・本論・結論といった構成の捉え方を意識させたり、文章全体や段落内容を要約したりする活動を、取り入れていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.5	71.6	69.6
	農業や水産業	87.2	86.7	83.7
	工業生産	88.1	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	91.1	87.7	77.4
	日本の政治	70.8	68.9	71.7
	日本の歴史	70.2	66.7	66.3
観点別	知識・技能	79.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	71.0	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

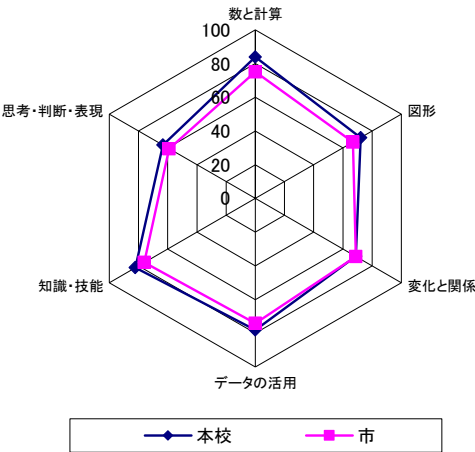
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市平均を上回った。 ○全ての問題において、市の正答率を上回った。特に、オーストリアの位置と国旗を問う問題は、市の正答率を3.7ポイント上回った。	・引き続き自主学習や授業等で地図帳やタブレットを活用して、国や県の位置や地形などを確認させる機会を多くもたせる。
農業や水産業	平均正答率は、市平均を上回った。 ○水産物の流通の工夫について資料を基に判断する問題は、市の正答率を3.8ポイント上回った。 ●米の生産工程を問う問題では、市の正答率を、2.1ポイント下回った。	・農業や水産業に対して身近に感じることができるよう、地域の企業の取組みを紹介するなどの指導を行い、興味関心をもたせ、さらに体験学習を設定する。
工業生産	平均正答率は、市平均を上回った。 ○全ての問題において、市の正答率を上回った。特に日本は工業の特色について問う問題は、市の正答率を4.3ポイント上回った。	・引き続き工業生産に対して関心をもてるよう指導を行い、理解を深める。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市平均を上回った。 ○全ての問題において、市の正答率を上回った。特に、情報の発信と受信の注意点を考える問題では、市の正答率を6.6ポイント上回った。	・今後も引き続き、社会科の授業以外でも、個人用パソコンを利用する機会を設定し、インターネットの正しい活用方法などを確認するなど、情報教育を進める。
日本の政治	平均正答率は、市平均を上回った。 ○内閣の働きについて問う問題では、市の正答率を2.2ポイント上回ったが、正答率は44.6ポイントと低かった。	・国の政治の仕組みについて、ニュース報道や新聞記事など生活に関連するものと結び付けて考えさせ、子どもたちの身近になるような指導を行う。さらに、修学旅行で訪れる国会議事堂等、現地へ行く機会をきっかけに、日本の政治について触れていき、理解を深める。
日本の歴史	平均正答率は、市平均を上回った。 ○古墳時代の大王についての問題は、市の正答率を9.3ポイント上回った。 ●江戸幕府の鎖国の窓口について問う問題は、市の正答率を9.4ポイント下回った。	・藩の名前と場所を結び付けて考える力、また、藩同士の交流や争いへの知識・理解を付けるために、地図を効果的に活用しながら、継続して丁寧な指導を行う。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.9	75.1	75.8
	図形	72.1	66.8	68.3
	変化と関係	68.8	68.8	65.0
	データの活用	78.1	74.1	63.6
観点別	知識・技能	82.1	76.1	75.8
	思考・判断・表現	63.3	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

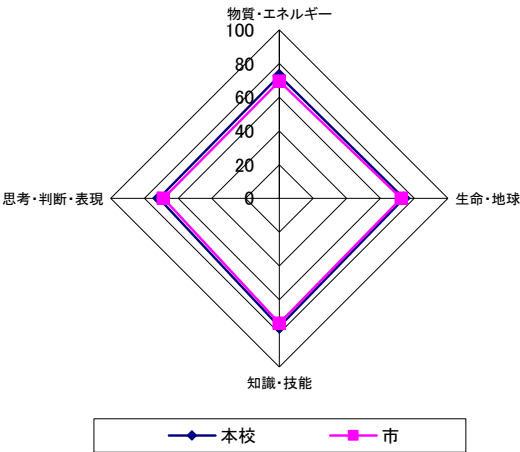
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を上回った。 ○分数÷分数の約分がある計算の問題は、市の正答率を13.9ポイントと大幅に上回った。 ○2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題は、市の正答率を11.4ポイントと大幅に上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・宿題や朝の学習等で計算練習に継続して取り組むことによって、より確実な定着を図る。 ・発展的な問題を解決する力も身に付けていけるよう、習熟度別学習等を生かして個に応じた指導の充実を図る。
図形	平均正答率は、市平均を上回った。 ○合同な三角形を作図する問題は、市の正答率を8.1ポイント上回った。 ●高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める式を選ぶ問題は、市の正答率を10.6ポイントと上回ったが、正答率は50ポイントに満たなかった。 ●線対称でも点対称でもある図形を選ぶ問題は、市の正答率とほぼ同じで、39.3ポイントと低かった。	・図形の底辺と高さを正しく読み取ることができるよう、継続して練習問題を解かせることで、定着を図る。 ・紙を折ったり、切ったり、作図したりする操作活動を授業で十分に取り入れ、対称についての実感的な理解を図る。さらに、身の周りから対称を見出したり、図形がもつ美しさに気づかせたりすることを通して、図形感覚を育む。
変化と関係	平均正答率は、市平均を上回った。 ○表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるか考察する問題は、市の正答率を0.7ポイント上回った。 ●速さと道のりから時間を求める問題は、市の正答率を0.8ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさの学習を実生活と結び付けさせながら進めることによって、単位量あたりの考え方の有用性を感じ取り、日常生活に活用できるようにする。 ・速さの学習では、数直線などの図を用い、速さが時間と道のりの2量の割合で表されていることを丁寧に扱い、速さの意味の理解を深めることを大切にする。
データの活用	平均正答率は、市平均を上回った。 ○ドットプロットのデータを度数分布表に表す問題は、市の正答率を8.7ポイント上回った。 ●円グラフを読み取る問題は、市の正答率を0.9ポイント下回った。	・円グラフの部分の割合を読み取るには、目盛りの数を数えるだけでなく、目盛りの数値の差から求めたり、10や5のまとまりを表す目盛りに着目したりする方法があり、効率よく読み取る方法を選択できるように様々な問題に取り組ませる。さらに、算数の場面だけではなく、他教科でもグラフを読み取る機会を設け、習熟を図る。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.8	69.5	65.2
	生命・地球	73.9	72.3	70.1
観点別	知識・技能	76.1	74.0	70.7
	思考・判断・表現	71.4	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市平均を上回った。 ○ふりこの周期の規則性に関する問題は、いずれも市の正答率を上回った。特に、ふりこの周期を求める問題は、市の正答率を11.2ポイントと大幅に上回った。 ●水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法について指摘する問題は、市の正答率を4.5ポイント下回った。	・水溶液から水にとけた物を取り出す方法について、考察の際に類型化したり、差異点をまとめたりするなどし、整理して理解できるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市平均を上回った。 ○流れる水のはたらきに関する問題は、いずれも市の正答率を上回った。特に、侵食について回答する問題は、市の平均を13.2ポイントと大幅に上回った。 ●小腸と肝臓の働きについて理解を問う問題は、市の正答率を4ポイント下回った。	・映像資料を使用して、視覚的に各臓器の働きを理解し、相互に作用し合って体が成り立っていることを考えられるようにする。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
教員それぞれの専門性を生かした教科担任制の取組。	・高学年を中心とした教科担任制の実施。	「勉強がすきか」の設問では、市の肯定割合を上回った。(1.9ポイント) 「学校の授業がどの程度分かるか」の設問では市の肯定割合を上回った。(2.1ポイント)
対話を通して、自分の考えを深めていく授業の展開。	・ペア、トリオ、グループ、全体など、適切な学習形態で考えを伝え合う。 ・発達段階に応じて、共感や質問、説得力を高める意見の言い方などを学習して、対話に生かす。	「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」の設問では、市の肯定割合をやや上回った。(1.5ポイント) 「自分の考えを、根拠を挙げながら話すことができる」の設問では、市の肯定割合をやや下回った。(1.2ポイント)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学力調査の結果では、どの教科でも市の平均を上回る正答率となった。引き続き、各教科等の授業において、教科主任を中心として教材研究を深め、学力の向上を目指したい。学習に対しての前向きな態度については、教科によっては、市の肯定割合を下回る結果となっているので、専門性を生かしながらそれぞれの学習への興味関心を高め、学びを喜ぶ児童の育成を目指したい。

・対話を通して考えを深める授業については、今年度の本校の研究課題と関わりのある内容であった。引き続き、効果的な場面で学習形態を工夫して意見を伝え合う中で、自分の意見をもったり、意見の内容を深めたりすることにつなげていきたい。